

商工会議所意見交換会 概要

開催日／①～③：平成27年6月25日（木）

④：平成27年7月14日（火）

開催会場／商工会議所会議室



1. 商業意見交換会

- ・ 商業部会：8名
- ・ 習志野市商工会議所：専務理事ほか2名
- ・ 市企画政策課：3名

●若者の雇用について

- ・ 商業部会に出席している小売りの商業ではなかなか若年層の雇用の機会がない。
- ・ 市内には3大学あるがいずれも理系の大学であり、市内の工業系の企業には就職している人が多少いるかもしれないが、商業において地元大学からの雇用はなかなか難しい状況であるかと思う。
- ・ また、千葉市より東京に近い各市町の若い方は都内への就職が増えている。千葉市から先の木更津市、君津市、館山市の方は千葉市内へ就職していく傾向が見られる。
- ・ サービス業では若年層の雇用が生まれる可能性は十分あるのではないかと思う。

●習志野市の特性について

- ・ 習志野市は、都心に勤める方にとって通勤環境として良い位置にあると思う。たとえば羽田空港に行くにも成田空港に行くにも東関東（東関東自動車道）を使えばこれほど便利な場所はない。船橋、千葉市も同一のエリアに含まれると思っている。
- ・ 物流の基地としても効率的。
- ・ 今回の地方創生における「地方」に習志野市は含まれていないと思う。一方で、人口を確保しながら減らさない策をどうするか、それは兎にも角にも魅力ある習志野市を作るしかないと思っている。

●小さな市の運営方法・公共施設マネジメントについて

- ・ コンパクトシティ構想でいうと、狭いがゆえにローコストで運営できるという期待感はある。
- ・ 各市との乗り合いということで習志野市は立派な文化ホールがあるので隣接の船橋市、八千代市、千葉市などにも大いに活用してほしい。各市がこぞって造りたがる、立派な図書館や体育館などをお互いに使い合ってみてはどうか。他の市と共有できるものについては少し遠くても市民の我慢も必要だと思う。
- ・ 習志野市サッカー場、野球場等々見ると観客席も少なく非常に中途半端な施設で、誰のため、何のために造ったのかな、と思うところがある。そのような施設は他の市にもあるし、無くすなら無くすで良い。ただ維持をしていくのであれば、ちゃんとした設備として再生してほしい。

●企業の地元貢献について

- ・国の施策で「地方創生」と言っているのであれば、その地方に事業を展開する大手企業には、地方に対する負担を負ってほしい。そうでないと信頼関係が崩れてしまう。
- ・市民経済部とも連携をとって習志野市に進出する企業その他団体、その他市が運営している施設に関しても、可能な限り地元の事業者との取引を優先して行ってほしい。
- ・市、会議所も一体となって習志野市の産業経済を活性化していかななくてはならない。地方を創生して維持管理していく上でも応分の負担をお互いにしていくことが大切だと思う。

●魅力あるまちづくりについて

- ・新しいまちづくりを考えていく以前に既存のまちづくりがどうなっているかを考えてほしい。そのうえで住みやすい、行ってみたいな、子育てしていきたいなという街を考えていかななくてはならない。
- ・子育て日本一というのもシティプロモーションの一つの大きな材料だと思っている。
- ・子育てに関して、習志野は一生懸命してくれている。子育ての関係で学校の教員を辞めてしまった人たちが、子どもたちを預かっており、これは雇用創出になっているので、相乗効果だと思う。
- ・知恵を出さないといけない。みんなで協力して意見を出し合って、習志野を創生していければと思う。そうすればよい方向に行くのではないか。
- ・習志野市には3つの大学がある。ぜひ彼らの意見を取り入れてほしい。
- ・ITの活用、今後の技術革新も視野に入れながら作ったらよいかなと思っている。医学や科学や技術の進歩を見逃さないように参考にしていければと思う。

●できることからやっていく

- ・我々事業者も地域社会の発展に少しでも貢献していきたいという考えがある。
- ・可能な限り形に残るものを作っていきたい。協力し合って実現できるもの、直近で出来るものをやっていく事が大事だと思う。
- ・たとえばハッピーバスはお年寄りが喜んでいる。観光の話になるが、谷津干潟まで入ってくれればうれしい。そうすると自然観察に行けるし、行ってみたい施設運営ができるかもしれない。あるものを効果的に活用していくことが大事。
- ・お互いに共通の理解をして、習志野市のためなら協賛する、と言われるような関係が大事だと思う。
- ・直近の出来ることから、形に表してやっていく。我々も協力し合ってやっていく。

2. サービス業意見交換会 ・サービス業部会：8名 ・習志野市商工会議所：専務理事ほか2名 ・企画政策課：3名	●若者をよぶまちづくり ・20代ぐらいの若い人に来てもらえるような施策に絞っていく必要がある。八方美人的なことをやっても駄目である。 ・若者に習志野の良いイメージを持ってもらい、地域に残ってもらうことが必要であるとする。習志野の知名度は高い。 ・奏の杜という素晴らしい新しい街があるので、習志野市に人をひきつけるよう、若者の意見を聞くなどして、魅力を作りたい。 ・実際に若者の生の声を聞いた上で反映することが必要。大学があるために、短期間であっても習志野市に移住する人が多い。若い人が常に入れ替わるため、商売をするには最高である。それは強みなので、せっかく転入してきた若者を抱き込んだ形でまちづくりを行えるよう、市と商工会議所が一体となって頑張っていきたい。習志野に若い人がたくさん集まってくればよい。 ●まちの特性 ・日本一住みやすい街にしたい。「習志野はこれだ」といった習志野の特徴を出していけるよう、知恵を絞っていこうと思う。 ・世代間交流が盛んで、元気な高齢者が多い。住民同士の距離が近い。 ●スポーツを通じたまちづくり ・総合戦略は5年を見据えた計画、5年後には東京オリンピックがある。習志野高校の野球部を始め応援団のコンサートが開催されるなど、スポーツを通じたまちづくりが可能であると思う。 ・オービックシーガルズの土日の練習や水曜日のジュニアアスリートキャンプに向けて、都内から結構人が来ている。 ・他市との連携を図り、健康を重視した施策があると良い。 ●新しい交通システムを活用したまちづくり ・カーシェアリングやレンタカーなど自ラ車を所有しなくても気軽に利用できるシステムも普及してきている。こうしたシステムを活用して高齢者にとっても住み良いまち、人の移動が盛んなまちをつくっていければ良い。 ・自動車業界では、EV、電気自動車や燃料電池車が普及し始めているが、エネルギーを充電するスタンドが少ない。ただし、武石インターには水素スタンドができた。また、超小型モビリティを地域のコミュニティ間の移動手段にしていく予定もあると聞いている。 ●人を重視したまちづくり ・人のつながり、団体同士の横のつながりができてきている。ヨコのつながりなど、人を重視したまちづくりが重要。 ●税収増加と雇用創出について ・文教住宅都市は、税収の増加に直接貢献はしない。税収の増加につながるような産業振興策が必要。 ・今後、地元の雇用をどう作り出していくか。地元の企業は地方銀行とタッグを組んで、雇用とお金の流れを考え、地元の企業の育成、
---	--

雇用創出に取り組んでいく必要がある。一方、ディズニーランドのような何か大きなもの1つを立ち上げて起爆剤とすることも一つ。

- ・習志野ブランドというものを立ち上げてみてもよいのでは。

●親元同居・近居について

- ・親世代から離れて若者が船橋、千葉に分散し核家族になっているケースも増えてきているかもしれない。世代を超えて一緒に居住する者に対して税制優遇をするなどの施策があってもよい。
- ・大久保界限には高齢者が多く、若い人がいない世帯が多い。そもそも住んでいた若い人が出ていってしまうのはなぜか。若い人と祖父母が同居すると子育てにもメリットがある。

●子育て支援について

- ・教育を含めた子育てについて特色あるまちづくりを進めていけば、若い世代が住みやすいまちという意識を持って入ってきてくれる。
- ・保育施設などを充実させ、働きながら子育てがしやすい環境を整えることが必要だと思う。
- ・母子家庭で苦しんでいらっしゃる方もいて、コミュニティを利用して仕事を提供するなど、習志野市で暮らしていける環境を整えることも必要。苦しんでいる方を助けるソーシャルビジネスも必要。

●若者雇用のしくみづくりについて

- ・市立高校がある上、大学が3つもあるということが特徴。これにより、外から若者が集まる。若者が卒業後も市内に居住してくれるよう、雇用先としての事業所数を増やしたり、企業を誘致するなどしていくことが必要。地元に住んでいれば雇用もあるという仕組みをつくる必要がある。創業支援なども行っているが、規模数が小さい。
- ・地元の企業も地元の若者を雇用する機会が少ない。もっと、大学と連携して習志野の若者を引き留められるような施策があると良い。地元、近隣に就職してとどまってくれるように、就職課、学生課などにアプローチすることが必要。たまたま流入した人をとどめるための施策が求められる。まめに大学にコミットすることが必要。

●課題とその対応

- ・平均年齢 25～26 歳の従業員 80 人のうち、習志野在住者が少なく、八千代や船橋から通ってきている。また、結婚し子供を育てている方も非常に少なく、市内で子育てしている人は 2 人だけである。若い人たちに「習志野だったらこういうことがあって、習志野に住みたい」と思わせる魅力が欠けているのではないかな。
- ・緑が少なく、意外とホッとできる場所が少ない。人がホッとできる空間、自然環境を考えながらまちづくりを行っていく必要がある。
- ・空き家対策として、空き家を改造し 10 分の 1 程度の安い賃料で貸し、仕事も斡旋している自治体もある。

3. 工業意見交換会 ・工業地域団体連合会：6名 ・習志野市商工会議所：専務理事ほか2名 ・市企画政策課：2名	●製品開発・研究拠点の整備 ・産業側として中小企業・零細企業何社かと自由に連携を取りながら製品開発の研究をできるような場所、我々が購入できないような機材を借りたいと考えている。内陸と臨海どちらか1つでも構わないが、研究開発できる場所が提供いただけるとよい。 ●立地特性を活かした産業展開 ・千葉市・船橋市に港があり、港から自由に輸出ができるような施策が考えられないだろうか。本来であれば習志野のような市で、港があって貿易特区のようなものを造って行くと、非常に産業の発展、海外展開につながるのではないかと考える。 ●高齢者等専門職の掘り起し・知識活用 ・市内の高齢者、専門職の掘りおこしをし、知識的にアドバイスをいただけるような流れがあるとよい。 ●市内工業の特性（インフラ・アクセス） ・10数年前と比べ、東京へのアクセス性の良さ・インフラは大分よくなっている。 ・企業で物を作って、最大の消費場所の東京で使うことは変えられない。そのような意味では、対東京を考えた時、都内の町工場と習志野の町工場では何の遜色もない。 ・企業が市内にあることがデメリットと思われないために、京葉道路の出口を改善していただきたい。 ・内陸は大型が入れない。 ・市内にはJRが2路線通っているが横のアクセスが悪く、2つに分かれた別の市になっており、市内だけの結びつきを考えると不便になっている。インフラをもう少しメインに据えてやっていくとよい。 ・千葉市から習志野市の事務所に通勤する際、（会社までの）アクセスが悪く、蘇我駅に出て、そこから新習志野駅に向かい、駅からは交通機関がない状況である。会社のバスを待つか車通勤の会社の同僚に拾ってもらうかで、結局、恵比寿の事務所に通っていた時と同じ時間に家を出なくてはいけない。 ・習志野市は工業にとって厳しいまちである。千葉市は積極的に企業誘致を行っており、かなりの整備を整えている。習志野市は文教都市と言われ、市内でメーカーとしての設備投資を行うことは厳しい。 ●企業と大学と行政との連携、若い人の雇用について ・市内の大学ともっと積極的なテーマを持ち、企業と大学共同で研究に組むべきではないか。 ・既に、日本大学の土木研究所と共同研究を行っている例もある。これからも企業と大学が連携できるようにし、結果的に中小企業・零細企業でも地元の大学生をそのまま雇用に結び付け、発展していく流れになるのではと考えている。産業が栄えればこのまちの住人も増える。
---	--

- ・市には素晴らしい技術を持つ企業が多い。しかし、学生は就職ナビを利用して東京の大企業に憧れることが多く、新卒学生が入らないことに悩む。本市の魅力が伝わっていない。市内企業と大学と行政との連携が必要。
 - ・千葉工業大学、日本大学生産工学部とは、市内の企業を見学する機会や何人か採用するなどの約束事を作れないかとの話をいただいている。〔商工会議所〕
 - ・学生に職場見学会に来てもらうことで関心を持つきっかけになる。学生が地元の企業に入ってもらえるように、マッチングの仕組みづくりが必要ではないか。
 - ・当社は研究所が習志野市にあり、毎年、地元の東邦大学をはじめ、全国から大学院生を採用している。入社すれば習志野市に住んでもらえるので、地元の大学や全国の学生を呼び寄せている。
 - ・個別にエントリーしてもらっている。地元大学をはじめ、学生は個人で就職活動を考えており、個別で大学に働きかけても効果は薄い。
 - ・NPO法人テクノサポートがマッチングをしてくれる。10年前までは非常に多くの学生が職場研修に来てくれた。最近の現場は金属を削るなど危険な状態であるため興味が薄れてきていると感じる。
 - ・千葉工大の学生は危険な場所での実習は禁止されており、その現場への立入りができない。逆にソフトウェアが専門になってきている。
 - ・一人でもよいから地元学生を入れたいと思うが、学生はあらかじめ自分でこういった方面に行きたいという希望を持っている。
 - ・千葉県内・習志野市に住んでいる方も含めて高校からの新卒の募集をしているが、非常に応募が少ない状況である。市内在住の方にこういった会社があることが知られていない。
 - ・オンラインで募集をかけているが、市内の高校へは働きかけが出来ていない。当社は（採用のターゲットは）地元の高校生になる。
- 外国人の受け入れについて
- ・外国人労働者の受け入れをもっと増やしていった方がよいのでは。国としてはもっと進んでやるべきと考える。今は円安で為替も輸出に有利になってきており、海外に出た工場も逆に日本に発注した方が良くらい日本の立場は良くなってきている。3年前まで当社にいたインドネシアの方は、非常に貪欲に働き、技術の飲み込みも非常に早く、僅か3年間で当社の基礎的な技術を完全に覚えて国へ帰った。そのような方たちを出来れば再雇用したいと考える。
 - ・日本はレベルの高い技術を持っている。人が増えれば生産量が増えて非常に見合ったものになる。そのような外国人の受け入れを、習志野市のみではなく、日本中で多くすべきと考える。

4. 金融機関意見交換会

- ・ サービス業部会金融分科会：12名
- ・ 習志野市商工会議所：専務理事ほか4名
- ・ 市企画政策課：3名

●知名度を活かした魅力（子育て・住環境等）の発信

- ・ 常住人口を維持するのか、昼間の人口を増やすのか、2つのアプローチがあると思う。習志野市は、文教住宅都市憲章ですとやってきて、子育てに非常に熱心な市だと感じており、そこをどう絡めていくのかということだと思う。習志野という名前は、高校も野球やブラスバンドで有名な所でもあるので、名前だけは知っているという方が結構いらっしゃると思う。子育てに熱心ということ、施策が充実しているというところを誘発的に絡めて、もっと対外的に発信する方法を考えれば、十分それだけでも魅力があるのかなと思う。
- ・ 例えば実籾というところ、知名度はそれほど高くない。ところが、実は習志野高校がありますよということ、そうなのか、ということになる。駅名を東習志野にしてみてもどうか。駅には大きなブランド力があり、ささいなことでもこのまちに住みたいというようになる。実際に周囲と比較しても比較的割安にいい住環境は整っていると思う。住宅ローンも伸びているし、住みやすいまち、そこに少しそういったイメージやブランド力を付けていけるとよいのではないかな。
- ・ 「津田沼」とか「習志野」というのは誰でも知っている地名だと思うので、地名をうまく使ったほうがいいと思う。

●少子高齢化を見据えた医療・介護分野への取組と連携

- ・ 老年人口も当然増えていくので、それなりの施設も必要だと思うが、やはり必要になってくるのは看護師の確保の問題だと思う。最終的にはどうやって優遇して集めることができるか、を市のほうで何かしらの方策が取ればいいのかと思っている。
- ・ 高齢化社会に対しては、成長分野といわれている、介護や医療の分野に力を入れるという形で、積極的に取り組むことにより、介護施設等の充実を図るために、開発、資金の援助等の情報収集をすることによって、地域の活性化につながっていくのではないかなと思うところに基づいて行っている。

●高齢者の戸建住居からの住み替え施策

- ・ 実籾は非常に高齢者の方が多く、60歳以上が入居者の中心で、よく話に出るのが、お子さんと同居されている方よりはご夫婦のみあるいはお一人でお住まいの方がけっこう、戸建ての開発されたきれいな所に住んでいらっしゃる。5年10年後ぐらいではどこか施設に入られる可能性ということもあるのかなと思う。こうした動きは止められないと思うが、例えばこういったネットワークを持って活動し、逆に出られる方より新しく入っていただく方に関しては、例えば、空き家対策を少し増やすとか、そういった状況をストップさせる。やはりきれい、生きるというニーズというか、そういったマーケットをしてみてもどうかと思う。

●若い世代の市への定着・産官学金の連携と若者の雇用

- ・ 三大学と連携し、学生のうちから起業する方は、これから増えてい

- くので、少しでもいろいろな出資をすとか、習志野市で企業を起こし、仕事を始めれば、税制面なり優遇されるというものがあれば、理系の方たちも起業意欲がもっと出せると思う。そしてそのまま住んでみようかという話になれば、ゆくゆくはプラスに転じると思う。
- ・袖ヶ浦団地も空きが出ていると思うので、学生に住んでもらえるような仕組みがあるといいと思う。例えば家賃を少し安くするなど。東京などでは地元の祭りに参加すると、さらに家賃を安くするという地区もある。若者に住んでもらえばよい。そういった施策をやると定着し、よければそのまま住んでもらうということになる。
 - ・（3大学に）2万5千人ぐらいの学生がいるのだから、もっとうまく使えないか。日中の人口の使い方と、その人たちをいかに引き止めるかということ。多分、学生の時代から、ここを気に入ったから住みたいと思ってくれる、そういったまちづくりというか、例えば商店街の方とのつながりだとかで、自分たちがここでずっと暮らしていきたいと思うようなこともあるだろうか、と思う。
 - ・行政と大学、商工会議所などが連携をして、大学でも創業といった指導をする部署もあるかもしれないし、大学生のマインドをいかに地域に向けさせていくか、を考えていったらいいのではないかな。
 - ・やはり地域の事業者さんとの連携というのも非常に大事である。地域の事業者さんがその大学生をぜひ獲得したいというか、つなぎとめたいと思っていただかないと、やはりそれは実現できないと思う。
 - ・中小企業や零細企業、個人事業主の方は大学生を採用するということをどうしても諦めているところがある。そういう企業に魅力がないのかというと、意外と魅力的な会社ということがあり、実際にそうした企業の代表の方とお話しても、うまくPRができないということで、単純に職安に届け出を出したり、リクルートに頼んでみたりというだけで、直接学生さんと会う機会を設けていないというのも現状である。逆にそうしたマッチングがうまくいけば、ある社長さんは、仕事はいくらでもあると。ただ仕事をこなせる人間がいないので、どうしても受注を断らざるを得ないというような現状もあるので、その辺のマッチングができていけば仕事の創生と、人口の減少の歯止めにつながってくるのではなかろうかと思う。
 - ・商工会議所や市が連携し、場合によっては金融機関もお手伝いするが、大学生、高校生と、地元の企業との就職の相談会といったものを本腰を入れてやってみてはどうか。例えば市内の工業団地とうまくマッチングできないか、あるいは学生は卒業したら就職する所がなくて、東京に行ってしまうというのであれば、もっと専門的にできる研究施設のようなものを茜浜に誘致してくるなど。
 - ・産学官金の連携があればいいのではないかな。創業や新規開業といった雇用創出にも当然つながるようになる。一律開業で大体3、4人の雇用創出効果があると全国的には言われているので、そういった

意味では10軒開業すれば30~40人ぐらいの地域の雇用が生まれる。ぜひ、そういった大学生をいかに地域につなぎとめるかということを考えていったらよいのではないか。

●起業・創業について

- ・創業は習志野市に限らず、日本全国的に進めていかなければいけない部分だと思う。習志野市は、5月に国の創業支援事業計画の認定もお取りいただいている。金融機関、公庫も含めて、金融面での支援については連携をしながら対応ができる体制は今できていると思っている。そういったところをぜひ活用いただき、創業者にとって使い勝手のいい、例えば制度融資の策定などを検討いただければと考えている。
- ・千葉工大は宇宙開発分野にも入っているし、未来ロボット技術センターがあり、非常にロボットでは先進的な研究をされているのであれば、介護ロボットといったものと上手く組み合わせるということをして市でやってみてはどうか。独立される方々、起業される方々の資金的な面での支援といったものと、すぐく恵まれているものをただくっつけばいいだけなのではないか。
- ・地元就業という基本的なコンセプトをもう一度考え直し、起業・創業やものづくりがしやすいまちづくり、といった考え方を見つめ直す必要がある。例えば、いろいろな地方公共団体ではもう進んでいる所もあるかもしれないが、起業・創業に関して地元の金融機関や税理士、会計をそれぞれの専門の方が集まって、企業を興したいという若手の人たちの相談窓口、枠組作りといったことの検討をして、少しでもそうした世代の人たちの支援ができるような場等を述べていくことも考えていかなければいけないというのが実感である。

●親元同居・近居

- ・息子さん世帯が居ないという状況。おそらく親元で一緒に住んでいて、ある一定の年齢になったら出て行ってしまふ。習志野に来て、卒業すれば出て行ってしまったり、習志野を通り過ぎて行ってしまふ人が非常に多いのかなと思う。そうするとやはり習志野にとどまるよりも、さっきの東京だとか船橋、千葉のほうが、より魅力を感じたりすることが多いのかと思う。親元で一緒に暮らすために二世帯というのでもいいと思う。そこに補助を出すとか、我々が住宅へのローン付けを少し低くするといったこともあるかもしれない。
- ・袖ヶ浦は非常に高齢化が進んでおり、お年寄りが住んでいるようなイメージがあるかと思う。ライフステージ的には過ぎているかもしれないが、二世帯住宅とか、子どもと一緒に住めるような、そういったものも補助、支援もしていけば良いと思う。やはり今働く人が多いので、保育園とはいえ、やはり親に見てもらったほうが良いという方も居るかもしれないので、そういった補助も考えると、人口が増え、また昔の環境にまた戻るのではないかと思う。

●高齢者と子どものふれあいの場づくり

- ・高齢者と保育園のコラボで施設をやったりしている所もあるので、そういった形でお年寄りとお小さな子が元気に育つような場所作りが非常に魅力的なのかなと思う。

●子育て施策の拡充・生活関連サービスの向上と金融機関の連携

- ・税金面や医療費の補助なども、やはり子育て世代が住まいを考えるときに結構見聞きして、あそこの市町村は小学校を出るときまで医療費がこうだよ、ここは幼稚園までだよなど、いろいろな話を比べながら、どこに住もうかなと選択を掛けていくところもあると思うので、自治体として財政の問題もあると思うが、やはり子育てしやすい町だねという、そういった主張も「習志野ブランド」の一つなのかなと思う。せっかく文教地区で名をはせてきた習志野なのだから、幼少のところも育てやすいまちづくりをもっと発信していくといいのではないかと個人的には思っている。
- ・生活関連のサービスの向上、介護や子育て等の支援、育成が必要なのではないか。結構そういう方は、いわゆるソーシャルビジネスといわれるところだが、金融にあまりなじみのない方が結構多いので、金融と行政、商工会議所も含め、一体になった取り組みというか、子育て事業、あるいは介護事業では、何か地域おこし事業といったものを支援していくといった体制が必要なのではないかと思う。

●不動産需要への対応

- ・藤崎はアパートの需要がすごく多い地域かなと思う。賃貸で見ると、その方が今度家を買う場所とか、また、福祉関係の需要が意外にアパートは多い。福祉系の提案があったときの補助策や、環境のオピニオンなど、そういうことができれば、と思う。

●船橋市との連携

- ・JR 津田沼駅に居ると、船橋と習志野の境目というのをすごく感じる。南口側と北口側で、少し地域性が違う。船橋市（の総合戦略）との相乗効果がもし可能であれば、JR 津田沼駅の辺りでやっていかれたらどうかな、と思う。船橋にしても習志野にしても新しい開発が進んでいて、人口が増えている。いろいろな意味でこれから相乗効果を出せると思う。そのような形でやっていただきたいと思う。

●産業構造（第2次産業就業人口の減少）

- ・第2次産業の従事者、まさしくものづくりの企業の就業人口が落ちていくというのは、我々金融機関としても、真剣に考えていかなければいけない。